

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年11月11日

事業所名 放課後等デイサービス森の地図

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動内容によっては過密状態になるため、グループ分けや活動内容を工夫し、安全に過ごすことができるように取り組んでいる	法令を遵守した活動スペースを確保しているが、コロナ禍ということもあり、1人1人の間隔を確保し、より安全性の高い環境を活動等の配慮により確保していく。
	2	職員の配置数は適切である	○		児童に対しきめ細やかな対応ができるよう、職員の配置は多めに配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		それぞれの状況を把握し、適宜環境の改善を行っている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々のミーティングの中で意識ながら行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	/	/		今回が初めての評価の為、該当なし。今回の結果を業務改善につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	/	/		今回が初めての評価の為、該当なし。今回の結果はホームページで公開する。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価は行っていない。相談支援事業所や保護者様の意見を業務改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内研修会を定期的実施している。また、資格取得補助制度により職員の資質向上にも取り組んでいる。	積極的に資格取得補助制度の利用を職員に促していく。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		契約時に保護者様へ聞き取りを行い、アセスメントを作成し、支援計画を作成している。また、事業所内で行った脳機能トレーニングの結果を分析し、計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		事業所で作成したアセスメントツール、発達検査と関連のある脳機能トレーニング機器の結果を使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		児童が楽しんで取り組める活動作りを行っている。	

適切な支援の提供	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		同じ活動でも季節や流行りなどを取り入れ、同じ内容にならないよう工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		休日は平日では行うことのできない活動などを設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○	児童の状況に合わせて計画を作成し適宜個別、集団の活動を設定し支援している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝朝礼を行い、申し送りや役割などの確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		振り返りを行い、気付いた点などをデータにまとめ共有している。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援の記録を電子システムで管理し、検証、改善につなげている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行い、現在の状況と支援計画を照らし合わせ見直しの必要性を判断している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		ガイドライン総則の基本活動を満遍なく行えるよう配慮している。	
関係機関や保護者との	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		コロナ禍で担当者会議を行う機会は少ないが管理者又は児発管が出席している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		担任の先生や支援学級担当の先生と密に情報共有を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				身体障がい児・重症心身障がい児は当施設の入居対象外の為、医療的ケアが必要な児童は在籍していない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている				就学して1年以上の児童のみの為、就学前に利用していた園等との情報共有は行っていない。今後就学する児童がいた場合は情報共有できる体制を整えていく。
24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している				障害福祉サービスへ移行する児童は在籍していないが、情報共有が行える体制は整えていく。	

連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		研修があれば参加したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナ禍の為実施なし。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している				開催されれば参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳・電話・送迎時の会話等共通理解を持てるようにしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		コロナ禍の為実施なし。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に対面で説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者から相談があった場合は職員間で共有し、支援方法等の検討を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍の為実施なし。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者に寄り添い、意見や思いを常に伺い、対応可能な事は即対応することで苦情が発生しないようにしている。苦情が発生した場合は迅速に対応できる体制を整えている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		保護者専用のネットページで情報提供を行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報保護の研修を職員に行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		理解しやすい言葉、穏やかな口調、トーンや表情に気を付けている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ禍の為実施なし。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		事業所の玄関と事務所にファイルを設置し、いつでも閲覧できるようにしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的な訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的な研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		身体拘束は行わない方針をとっている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		食事やおやつを提供時は細心の注意をはらっている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		報告書の作成、職員間の周知を行っている。	